

「理学療法と社会参加と留学」

私は今、デンマークで留学をしています。今回は、大学の先生からお話をいただき留学について書かせていただくことになりました。主に理学療法士になりたいと考えていらっしゃる高校生の方に向けて、留学の話を踏まえて私が感じている理学療法の魅力について、なにか伝えればと思って書きます。

私は、理学療法士は人の人生に貢献できるやりがいのある仕事だと思っています。私が高校の頃の理学療法士のイメージは「歩行などの基本的動作能力を改善させる」ことでした。今でも、基本的動作能力を維持・向上させることは理学療法の基本だと思っています。しかし、それだけではなく、大学で4年間学ぶ中で理学療法の深さと面白さを感じました。それは、人それぞれの人生に深く関わりながら相手の人生に本気で貢献できることです。相手の身体機能を評価・治療することはもちろん、その方がどんな時代や価値観の中で、どんな人たちに囲まれて生きてきて、今の障害や今後に対してどのように感じているのか。そこまで考えて、実際に理学療法という方法で支援できるところがこの仕事の魅力だと感じました。そこで大切になってくるのが、身体機能だけではなく、社会参加まで考えるということだと思っています。

実習や、学校の先生の話聞いて、上記のように理学療法の魅力を感じましたが、今の自分の中で社会参加という言葉がふわふわとしてつかみどころがなく、この言葉の意味をもっと理解したいと思いました。そこで、大学を休学して、トビタテ！留学ジャパンという奨学金を使ってデンマークに来ています。この奨学金は返済不要で、なおかつ高校生コースと大学生コースがあるので、海外に興味のある方は是非チェックしてみてください。

1月7日からデンマークのEgmont Højskolenという学校で生活をしています。この学校の特徴としては、障害のある学生とそうでない学生、先生と一緒に半年もしくは一年間共に生活して学ぶということです。授業のバリエーションもとても多くて、基本的にどの授業も障害があっても参加可能で、本人が選択して選びます。授業だけではなく、スポーツやパーティー、寒中水泳等のアクティビティーも障害があろうがなかろうが、自分みたいにデンマーク語がわからなかろうが、参加したい人はみんな参加して楽しめます。このユニークな環境での共同生活を通して、ハンディキャップのある人の社会参加を考えるとはどういうことなのかを、自分がこの環境での体験を通してちゃんと理解し、そして日本に帰って、身体機能だけでなく社会参加まで考えられる理学療法士になりたいと考えています。ここでの生活もまだ始まったばかりなので、今、目の前のことを丁寧に考えて、行動して、楽しんでいきます。



(毎週金曜日のパーティーではお酒を飲みながら先生の本格的なバンドに合わせて踊って楽しむ)